

# 学芸員さんが選ぶ博物館のお宝

## 1 自然史



丹野 佳代子さん

**何**と言っても「ティラノサウルス生態模型」です。どことなくユーモラスな表情で高さは3メートル。実物大の1/2ですが、それでも常設展最大級の大きさです。この子がやってきたのは当館がオープンした1970年。3つに分割され国立科学博物館から運び込まれたそうです。石膏製でかなりの重量のため動かすことは不可能。開館以来、ずっとこの場所に立ち続けています。

これは国立科学博物館の動物標本彫刻を手がけられていた彫刻家の今里龍生氏の作品で、当時定説とされていた恐竜の姿を知ることが出来ます。近年は鳥に近い種として認識されており、尾を地面につけた姿での復元は見られません。今年10月からは、模型の後ろに最新のティラノサウルス像について解説したパネルを設置しています。模型とパネルを見比べ、恐竜研究の変化を感じてください。

# ユーモラスな博物館の“宝” ティラノサウルスの1/2模型



設計担当は東京大学名誉教授で日本学士院会員の内田祥哉さんと大阪芸術大学名誉教授で建築家の高橋誠一さん。二人は県内では県立図書館、旧県立青年の家を協働で手がけてい

## 日本の近代建築100選

まるで宇宙から城内に降りたような、不思議な浮遊感のある建物。佐賀県立博物館は名建築として評価が高い。金沢工業大学講師（建築史）の戸田穰さんは「1階がいちばん小さく、上に行くほど4方向に広がっていくダイナミックな造形が特徴です。プレキャストコンクリートという、工場であらかじめ製造され統一された部材が連続していく、この時代だからこそ表現できた挑戦的な空間です」と評価する。

## 名建築



未来的な造形の外部から中に入ると印象がガラッと変わる。内部には洞窟をテーマにした重厚な空間が広がる。天窓からの

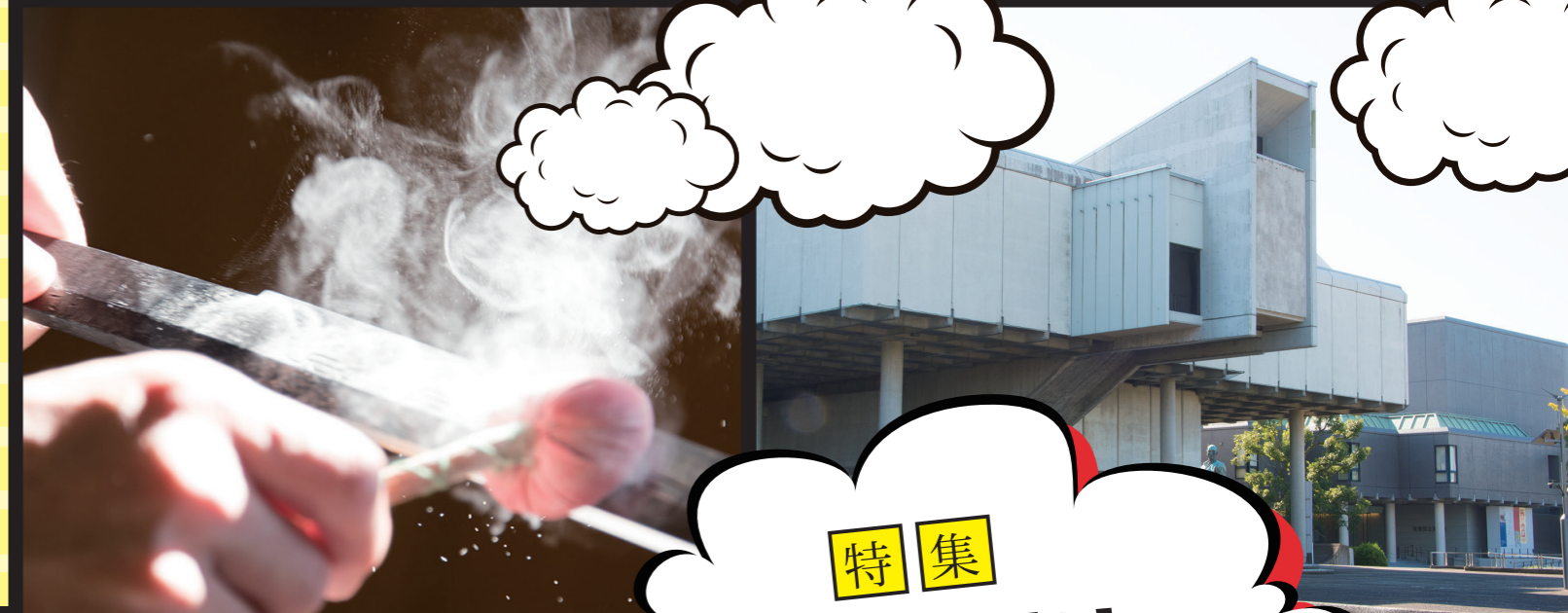
## 洞窟？ 忍者屋敷？

さらに九州陶磁文化館は内田さんの、県立佐賀コロニーは高橋さんの設計だ。完成当時の1970年に国内で最も権威のある建築賞「日本建築学会作品賞」を受賞。2003年には優れた近代建築を表彰する「日本におけるDOCOMOMO100選」に選定された。今年、金沢21世紀美術館で行われ話題を集めた建築展「ジャパン・アーキテクツ1945-2010」でも戦後日本における150のプロジェクトの一つとして選ばれた。同展はポンペドゥワー・セント・パリの国立近代美術館副館長のフレデリック・ミゲルー氏が監修・キュレーターを務めており、国際的な評価の高さをうかがわせる。

# ダイナミックな造形 高評価

独創的な外観だけでなく、佐賀の場所性と歴史を反映した内観、モダンな動線計画。いろいろな要素が高い次元で融合している。「佐賀には内田氏・高橋氏設計の建物がまっとうして存在しており、それ自体珍しいことです。まさに佐賀が育んだ建築文化で、どれもいづれは文化財となるにふさわしい歴史的な名建築です。佐賀の宝として今後も大事にして欲しい」と戸田さん。オープン以来45年が経ち、何かと不便なところもあるだろうが、なんとか知恵を出し合っ

て、次の世代に伝えたい名建築である。



## 特集

# 県立博物館はワンダーランド!!

**県**外から友人が来た時、時間と都合が許せば、できるだけ佐賀県立博物館へ連れていくことにしている。古代から近代まで佐賀のありとあらゆる歴史が具体的なモノとして展示されている。分野も自然史、考古、美術・工芸、歴史、民俗と幅広い。しかも常設展は無料だ。佐賀を知ってもらおうはじめの一歩としては、これほど最適な場所はない。しかし肝心の佐賀市民があまり足を運ばないのもつらい。今回の特集では、いろんな分野の学芸員さんにイチオシのお宝を聞いた。また県立博物館のセールスポイントもいくつかピックアップした。名建築である事や国内有数の肥前刀コレクション、有明海と民具の関係、そして移転リニューアルして大人気のカフェ。佐賀の歴史と風土が学べて食事できる、県立博物館は魅惑のワンダーランドだ!!

# WOW!

# !!!

# KA-BOOM!





学芸員さんが選ぶ  
博物館のお宝

3 仏教美術



竹下 正博さん

クスノキの仏像  
阿弥陀如来像



**巨** 大な1本のクスノキから彫り出して造られた「阿弥陀如来像」です。平安時代に造られたものと推測されています。高さは195・5センチ、唐津のお堂に安置されていました。

この仏像の左肩口と足元には大きな穴が空いています。本来は仏像の素材としてはあまり好ましくありません。敢えて使ったとすると、おそらく、この木がいわれのある霊木だったのでしょうか。太づくりで男性的な顔立ち、胸板の厚さ、引き締まった衣のひだなど力強い造形。厄災を打ち払う力を感じさせます。

「さが」の地名はクスノキが「栄える」ことに由来するとされています。まさに佐賀らしい仏像だと思います。

江藤新平の刀



島 義勇の刀



学芸員さんが選ぶ博物館のお宝

2 考古



細川 金也 さん

**当** 館のロビーに鎮座する「熊本山古墳出土舟形石棺」は古墳時代中期の4世紀ごろに造られたとされる国の重要文化財です。

同石棺は1963年、佐賀市久保泉町の熊本山でみかん園造成中に発見されました。特徴は中央の主室にある枕のような段差。この中に2体の人骨が埋葬されていましたが、どういった人たちは今も謎のままです。材質は阿蘇溶岩で、熊本県の宇土、宇城市周辺から運ばれたと推測されています。これだけ大きな石をはるばる佐賀まで持ってくるのは大変だったでしょう。

国の重要文化財という貴重な“お宝”ですがガラスケースに入れることなく、身近に見ることができます。当館に来た研究者は、みなさんびっくりされます。

ロビーに鎮座  
国重文 熊本山古墳出土舟形石棺



肥前刀

**名** 刀を擬人化したオンラインゲーム「刀剣乱舞」の人気により、にわかに注目を集める日本刀の世界。佐賀には江戸時代に高い評価を受けた「肥前刀」の歴史がある。佐賀県立博物館が持つ全国有数の肥前刀コレクションについて学芸員の竹下正博さんに聞いた。その収蔵作品からは、佐賀の七賢人・島義勇と江藤新平の友情の物語が紡ぎ出される。

最高ランクに3人

肥前刀とは佐賀藩の御用刀

江藤と島の熱い友情？

工だった忠吉（初代から9代まで）とその一族・一門が佐賀城下で制作した刀剣類のこと。1600年頃から明治期まで造り続けられた。竹下さんは「江戸時代の刀剣書『懐宝剣尺』では、最高ランクの『最上大業物』12人の中に、初代忠吉など肥前刀から3人が選ばれています。同書では実際に試し斬りをして刀工ごとの切れ味を鑑定しています。肥前刀の質の高さと当時の高評価がうかがえます。また外見の特徴は姿形が整っていること、地肌が米ぬかをまいたように美しいことです」と解説する。武器としても、美術品としても高い質を

持っている。

2人同時期に依頼

同博物館では、寄託品や資料を含め290振の刀剣を管理している。その中から竹下さんが見せてくれたのが、島義勇と江藤新平の肥前刀。ともに同じ年に吉包によって制作され、双方とも天皇親政を願う歌が刻んである。「島の刀は刃長90センチという大きなものです。刀身に維新に功績のあった公家・三条実美の和歌、茎に自作の漢詩が刻まれています。江藤のものは67・6センチと島のものより小振りですが、同じ寸法のものをもう一振、計2口所有し

手入れも入念に

武器であり、美術品であり、歴史の証人でもある肥前刀だが、その管理には細心の注意が要求される。「必ず年に4回以上、油を塗って保管しています。290振あるので毎週、研師さんが来てメンテナンスしています」と竹下さん。同博物館が所蔵する最も古い刀は鎌倉時代の「古備前」。約700年前からずっと手入れを続けたからこそ、現代でも、その美しさを鑑賞することができます。佐賀の誇る宝として次の世代に伝えていきたい。

※常設展では12月15日から島義勇と江藤新平の刀を展示します（来年1月31日まで）





# 学芸員さんが選ぶ博物館のお宝!!!

## 6 民俗



山崎 和文さん

### 肥前国産物図考

【佐賀県重要文化財】

**捕** 鯨や紙すきなど、唐津藩の特産物をまとめた貴重な絵図です。江戸時代中期の1773年から13年かけ藩主水野忠任(ただとう)の命を受けた軍学師・木崎盛標(もりたか)が作成しました。

全8帖に描かれているのは、玄界灘で行われていた漁や馬渡島での馬の飼育や鹿狩り、北波多村での石炭採掘、相知の大甕作りなど20数件。伊岐佐川では「鵜飼い」が行われていて、お酒を飲みながら漁を楽しむ様子も生き生きと描かれています。

絵図の最後には「お殿様の子どもたちと与える絵本」と目的が記されていますが、絵だけではなく解説も詳しく書かれていて、さながら「マニュアル」のようです。今は失われた産業も克明に描かれている本当に貴重な資料です。



鵜飼之図



肥前国唐津領馬渡島馬牧并駒捕

# 学芸員さんが選ぶ博物館のお宝!!!

## 4 工芸



川副 麻理子さん

**鍋** 島織通は江戸時代、「扇町紋織」と呼ばれて、佐賀市嘉瀬の扇町で作られていました。一般に絨毯は羊毛を使いますが、「鍋島織通」は木綿を使うのが特徴。有明海干拓地の塩抜きのために植えられた綿花を使用していました。綿なので夏場でも肌触りが良く、気持ち良く過ごせます。かつては佐賀藩から將軍家などへの献上品として保護されていました。鍋島焼と同じように一般へは出回らない、まさに「お宝」でした。制作に携わる人には「扶持米」という給料が支払われていた、という記録が残っています。

有名な図柄は、大きな牡丹を、蟹がはさみ上げている様子に見立てた「蟹牡丹」。明治以降は注文に応じて色々なデザインが作られていたようです。



鍋島織通 蟹牡丹文(江戸~明治前期)



鍋島更紗秘伝書【佐賀県重要文化財】(江戸後期)

# 有明海

「有明海」という特有の環境が、漁や農業、住居にまで影響を与えたことが、民具を見るとよく分かります」と話す学芸員の山崎和文さん。佐賀独特の道具と有明海の関係について、実際に展示品を見ながら解説してもらった。

### 待ちの漁法

干満の差が日本一である有明海は潮の流れが速い。内海のため波が立たないので一見穏やかに見えるが、その内部は激しい潮流が渦巻いている。「漁法も、待ち」のものが多いですね。潮流が速いので獲物を追い込む必要がありません。「竹はじ」という竹を海底に漏斗状に刺して魚を網に誘導する定置網漁では、竹と竹のすき間は大きいのですが、潮の流れで竹が大きいたわむため、魚が逃げません」と山崎さん。今から約1万年前、温暖化に伴い、それまで陸地だった現在の有明海に海水が入り込んだ時、ワラスボ

### 強固な粘土層

佐賀平野の干拓の歴史は有明海の干潟との戦いだった。干拓地を農地として利用するには、まず灌漑用のホィ(堀)が必要だった。「今でいうクリークですが、有明海の干満でできる滞り(水の流れ)を掘り下げることによって作られました。だから佐賀平野は揚水灌漑が強いられました。そこで生まれた農具がゴミクイ桶です。クリークの底に溜まった泥土をすくいやすいように、はじめから歪んだような独特の形をしています。ちなみにゴミとは泥

## 特有の環境 民具生む

土のことです。有明海の泥は8万年前の阿蘇山大噴火の土砂が長い時間をかけて有機物と混ざり、河川を流れてやってきた。泥は有明海の奥部にいくほど粒子が細くなるため、最奥部である佐賀平野の泥は非常に粘りが強い。「反面、有明海の泥は養分に富んでいるため、非常に良い農地になります。問題はどうか耕すか。鍬や犁といった農具も独特な形状に進化していきまし。一般的な鍬に比べ、刃と柄の角度が鋭角になっており、強固な粘土層に対応しています。江戸時代後期、名古屋の商人の旅日記には、佐賀平野の鍬を見て、その独特の農具の姿に驚いた」と記され

### 軟弱地盤に対応

佐賀の古民家の特徴である「コ」の字型をした「くど造り」も有明海の影響だという。「従来、くど造りのコの字型は台風被害を軽減するためだとも言われてきました。確かに佐賀平野のくど造り民家はほぼ、閉じた方を南に向けて建てられています。福岡ではむしろ、その逆が多い。有明粘土と呼ばれる軟弱地盤に建つくど造り民家は他の民家に



有明海漁撈用具(重要有形民俗文化財)



白石平野の鍬



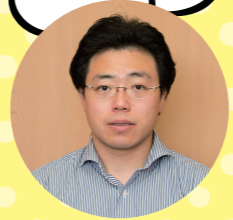
ゴミクイ桶



佐賀平野の鍬と犁

# 学芸員さんが選ぶ博物館のお宝!!!

## 5 歴史



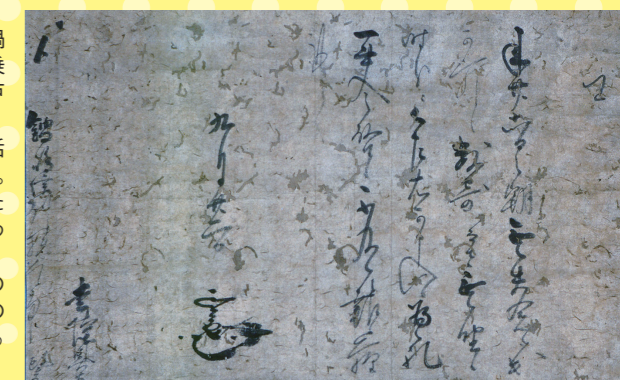
藤井 祐介さん

**有** 名な戦国武将・伊達政宗から、佐賀藩初代藩主・鍋島勝茂に宛てた書状です。政宗が「陸奥守」と名乗り、勝茂のことを「信州様」と記していることから江戸初期に書かれたものと推測されます。

内容は面会の約束を確認するもの。「以前の茶会で話さなかったことをしっかり話したい」と書かれています。徳川の天下になったとはいえ、まだ戦国の空気が残った時代、2人の大物外様大名がどんな話をしたか興味がわきます。

政宗の書状といえば「鶴鶴の花押」。政宗が一揆扇動の疑いをかけられた際、潔白を示す証拠として示したものです。この書状にも、鳥のセキレイを模した花押が入っています。この部分は政宗直筆と考えられます。

## あのセキレイの花押!! 伊達政宗の書状



### ☆道具クイズ☆ これは何に使う?



A



B



C



D

E



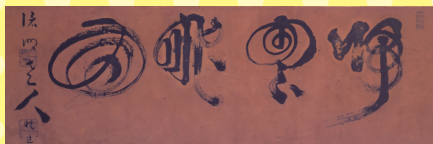
# 学芸員さんが選ぶ博物館のお宝



## 7 美術

### 奇想天外な筆使い

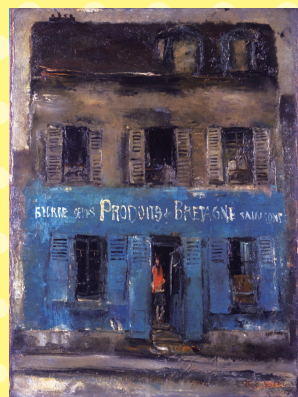
**幕**末、維新期に活躍した佐賀の七賢人の一人・副島種臣が書を本格的に始めたのは40代後半になってから。



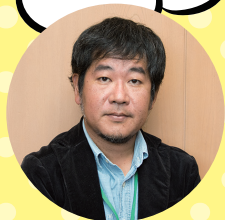
副島種臣「帰雲飛雨」

この「帰雲飛雨」のような一度見たら忘れられない、奇想天外な筆使いは、まさに種臣の書の真骨頂です。造形の奇抜や、美しさは「文字以上の文字」であり、「書」というカテゴリーを軽く飛び越えて行きます。

大正期の洋画家・佐伯祐三の傑作「八百屋」は、30歳で死去する3年前の1925年、パリで描かれた作品です。画面いっぱいに描かれた建物にはフランス語で「ブルターニュ産物品、バター、タマゴ、塩物」と描かれています。パリの街角のありふれたシーンを切り取った佐伯らしい作品です。ずっと県知事公舎の一室にあったそうですが、今では博物館を代表するお宝になっています。



佐伯祐三「八百屋」



野中 耕介さん

# トレス

## 大人気!! 足運ぶきっかけに

立博物館の最近の話題はカフェが新しくなったこと。美術館のリニューアルに合わせて今年4月に、唐人町からカフェ・トレスが移転。お洒落な雰囲気と素材を大事にするメニューで昼時には入店待ちの人も出る大盛況だ。

### 犬と一緒に休憩

「週末は美術館・博物館にきた子供連れやお年寄りまで年齢層は幅広いです。お堀で犬の散歩する人が、一緒にテラスで休憩したりしていますよ」とカフェ・トレス代表の清田祥一朗さんは語る。唐人町時代のお客さんたちにも、駐車場が広くなったと好評。午後の素敵な時間をゆっくり過ごす人も多い。

カフェ・トレスといえば、唐人町時代から、音楽ライブや餃子パーティーなど、いろんな興味深いイベントを手掛けてきた。「移転してからも恒例のマルシェを3回しました。野菜や加工品、フェアトレードチョコ、絵本などを出店してもらい、約200人くらいのお客さんと賑わいました。そのほか、フラメンコやチーズパーティーなど自分



たちも楽しめるものを中心に企画しています」と清田さん。開催中の展覧会のポスターを店内に貼るだけでなく、テーブルにポップを置いたり、トレス

### 地場素材と常設展

目当てのお客さんに博物館・美術館へ足を運んでもらう工夫をしている。

同店の料理は地元産の野菜にこだわっている。市内の生産者から直接、週3、4回持ってきてもらっているという。しかも、お米は無農薬、無化学肥料だ。地元根ざした素材を味わうと、それらが作られた風土に興味を持つはず。博物館の常設展には、佐賀の歴史や知恵に関する資料が集められている。美味しい食事と、それを深く理解できる常設展。「博物館とカフェが一緒にあることで、より面白い体験ができると思っています。今後は外部空間をうまく使いながら、もっと博物館・美術館へ足を運んでもらえるようなきっかけ作りに取り組んでいきたいです」と清田さんは語る。



《open》 火・日 9:30~18:00  
 《close》 月・博物館 美術館 休館日  
 《TEL》 0952-37-8402  
 《住所》 佐賀市内 1-15-23 佐賀県立博物館 1F  
 《P》 博物館 美術館 駐車場

### ☆道具クイズ☆

これは何に使う?

答え

- A 捕鯨船の見張台
- B <sup>かき</sup>牡蠣採り用下駄
- C 栗拾いの道具
- D 米を流し入れるための <sup>しょうご</sup>漏斗を転用した魚採り用のかご
- E 鴨撃ち銃